福井県文書館企画展示

授業にでてくる ふくいの史料

平成20年

7月25日(金)―9月23日(火)

開館時間　9:00～17:00　休館　月曜(9/15を除く)・8/28・9/16　入館無料

近世の幕開け

15世紀後半の応仁の乱以来、初代朝倉孝景(あさくらたかかげ)❶は越前一国を支配する戦国大名としての基礎を確立し、「朝倉孝景条々(あさくらたかかげじょうじょう)」❷を残しました。

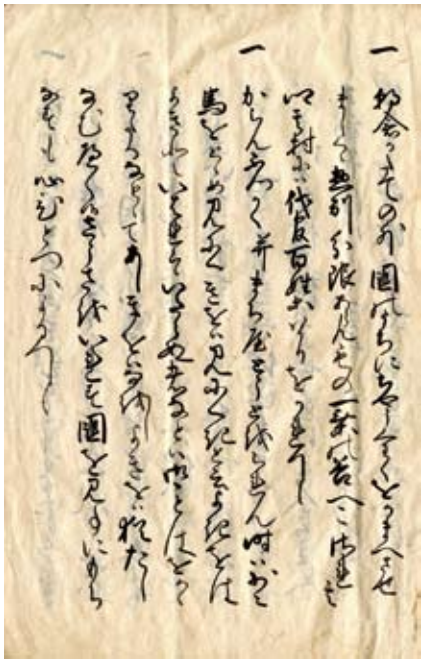
16世紀になると、加賀の一向一揆(いっこういっき)の脅威があったものの、国内は安定し、とくに一乗谷には多くの文人・学者が訪れ、「小京都」と呼ばれるような繁栄をみせました。

しかし、この安定と繁栄は長く続きませんでした。やがて、1573年(天正１)、足利義昭を奉じて上洛を果たした織田信長によって朝倉氏は滅亡させられてしまいました。

信長は、ついで一向一揆を滅亡させ、重臣柴田勝家を越前に配置しました。

こうして、越前の近世は幕が開けられたのです。その後、82年の本能寺の変後、豊臣秀吉は柴田勝家を破り、やがて天下人の地位につきます。以上のことを、県内に残された史料でたどってみましょう。

❶ 朝倉孝景(英林)
福井市心月寺蔵

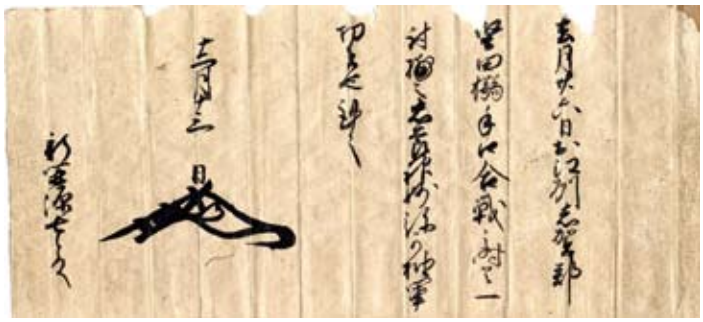


❷「朝倉家之拾七ヶ条」
松平文庫蔵　福井県立図書館保管

これは、現在福井県内に所在する唯一の「朝倉孝景条々」の写本で、写真はその一部です。

❸『信長日記』 山内秋郎家文書　当館蔵
X0142-00285~00291

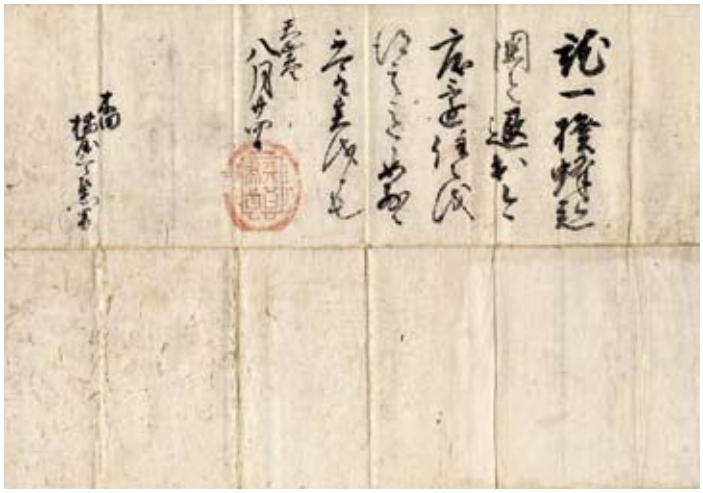
これは、『信長公記』の諸本のうち、『原本信長記』(内閣文庫蔵)系統の写本と考えられます。『信長公記』は、織田信長の経歴の正確な記録をめざした、信長側近の太田牛一の作です。



❹「朝倉義景感状」

片岡五郎兵衛家文書　当館寄託
A0027-00006(001)

1570年（元亀１）に朝倉義景が近江国堅田（かたた）における織田信長との合戦で、朝倉義景が配下の新開氏（しびらきし）の戦功を賞して与えた感状です。



❺「織田信長朱印状」

橘栄一郎家文書　福井県立歴史博物館蔵
A0016-00009

1575年（天正３）８月に、信長は十万余の軍勢で、越前に再び侵攻し、またたく間に一向一揆を平定しました。これは、一揆平定後、戦乱を逃れていた足羽三か荘の一つ木田（現在の福井市木田）の豪商橘家に、信長が旧来の権利を認めたものです。

❻「柴田勝家知行宛行状」

片岡五郎兵衛家文書　当館寄託
A0027-00003

1577年（天正５）に信長から越前の支配を任せられた柴田勝家が、家臣となった新開氏に坂井郡の所領200石（王見郷（おうみごう）宮森村）を与えた際の文書です。

❼「羽柴秀吉禁制」

橘栄一郎家文書　福井県立歴史博物館蔵
A0016-00021

禁制とは、支配者が民衆に対し、禁止事項を広く知らせるために作成した文書です。これは、1583年（天正11）4月、賤ヶ嶽（しずがたけ）の戦いで柴田勝家を破った羽柴秀吉が、木田の豪商橘家宛に出した禁制です。

医学の発展

杉田玄白❽は、1733年(享保18)、若狭小浜藩医の子として、江戸で生まれました。母は玄白を産んだときに亡くなってしまいます。８歳のとき、父とともに小浜に移り住み、13歳までそこで暮らしました。その後、オランダの医学を学び、21歳のときに小浜藩医となりました。そして、39歳のときにオランダ語で書かれた解剖書『ターヘル・アナトミア』を手に入れます。この本との出会いが玄白の人生を大きくかえることとなります。

❽ **杉田玄白肖像**　早稲田大学図書館蔵

『ターヘル・アナトミア』の翻訳作業は、杉田玄白と同じ小浜藩医の中川淳庵や豊前国(大分県)中津藩医の前野良沢らによってすすめられました。しかし、彼らのオランダ語の知識はわずかなもので、「眉とは目の上にはえた毛です」という所を訳するのにも丸１日かかりました。それでも彼らはあきらめずに努力を重ね、74年(安永３)、42歳のときに『解体新書』❾を完成させました。これが与えた影響は大きく、日本の医学を大きく前進させるきっかけとなりました。

❾ **『解体新書』とびら絵**　福井県立図書館蔵

２つの解剖図をみてくらべてみよう。

左の図は、中国の明の時代に書かれた『万病回春』の解剖図❿で、江戸時代の医者が教科書としていたものでした。右の図は、杉田玄白がオランダ語で書かれた『ターヘル・アナトミア』を翻訳した『解体新書』の解剖図⓫です。

人体のとらえかたにどのような違いがあるでしょうか。

❿ **左『万病回春』**　真田一郎家文書　当館寄託
C0126-00001～00008

⓫ **右『解体新書』**　福井県立図書館蔵
A0145-00658～00662

玄白の孫の杉田成卿⑫は緒方洪庵⑬とともに、江戸時代後期を代表する蘭方医（オランダの医術を修めた医者）でした。成卿は1845年（弘化２）家督をつぎ、小浜藩侍医（藩主の主治医）になりました。

緒方は、笠原白翁（ふくいの蘭方医）から種痘（天然痘の予防接種）の痘苗をわけてもらい大坂で種痘をひろめたといわれています。

また、緒方洪庵によって大坂に開設された適塾には、全国から蘭学を志す多くの若者が集まりました。

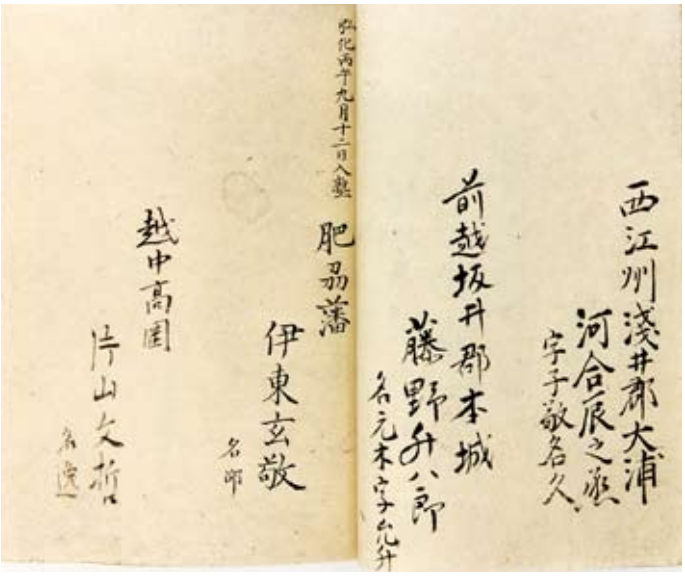
適塾には、1844年（弘化１）から64年（元治１）までの入門者が署名した『姓名録』⑭が残されています。この姓名録には、福沢諭吉など幕末から明治にかけて活躍する多くの人々の名前を見つけることができます。

ふくい関係では橋本左内や藤野升八郎（藤野厳九郎の父）など25名の人々の名前が書かれています。55年（安政２）には、適塾の塾頭をつとめた伊藤慎蔵が大野藩に招かれました。このようにふくいでは蘭学が大変盛んでした。

⑫ 杉田成卿
『済生三方』
C0126-00060～00062

⑬ 緒方洪庵
『扶氏経験遺訓』
C0126-00040～00059

ともに真田一郎家文書　当館寄託



⑭『姓名録』複製　原本　日本学士院蔵　大阪大学提供
X0147-00001

藤野厳九郎と魯迅

藤野厳九郎は、1874年（明治７）敦賀県坂井郡下番村（現あわら市）に生まれました。適塾で学んだ父の升八郎と同じ医者となり、仙台医学専門学校教授となりました。この時、藤野の解剖学の授業の生徒だったのがのちに作家、思想家であり中国の国民的英雄となる若き魯迅（本名 周樹人）でした。この魯迅と藤野の師弟関係は魯迅の著書『藤野先生』で広く世界に知られることとなりました。

⑮ 藤野厳九郎　東北大学史料館蔵

参考　『杉田玄白と解体新書』（福井県立図書館）
『緒方洪庵と適塾』（梅溪昇　大阪大学出版会）
『新しい社会　歴史』（東京書籍）
『適塾の謎』（芝哲夫　大阪大学出版会）

近代日本の出発

明治維新に始まり国会開設への歩みを語る史料は、県内にもたくさん残されています。

五箇条の御誓文⑱は、1868年（明治１）に新政府が明らかにした政治の基本方針でした。天皇が神々に誓う形をとったので、「御誓文」と呼ばれました。政府の機関紙である『太政官日誌』⑳で一般に知らされました。

その最初の案は、ふくい出身の新政府参与、由利公正⑯が書いた「議事之体大意」⑲でした。「知識を世界に求め」「政治上重要なことは世論の方向にしたがって決め」るといった考え方は、由利が教えを受けた横井小楠（福井藩の政治顧問）の富国策や、交流のあった坂本竜馬、さらには、当時しばしば用いられていた「公論」「公道」の考え方を端的にまとめあげたものでした。

⑯ 由利公正

『由利公正伝』

由利案は、諸大名の会議（「列侯会議」）のための盟約書として福岡孝弟によって加筆・修正されましたが、新政府の対外的地位と旧幕府勢力に対する優位がはっきりする中で、最終的に「広ク会議ヲ興シ万機公論ニ決スヘシ」とされました。そしてこの一文が、政府からも政府を批判する自由民権派からも、立憲政治・議会制度の実現を主張する際の重要なよりどころとなっていきます。

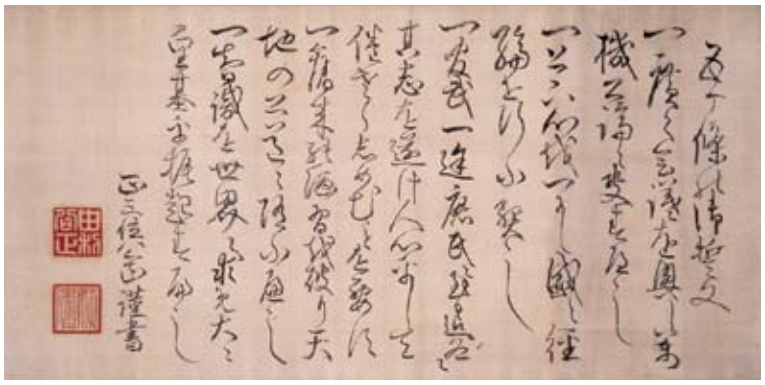
⑰ 杉田定一

『杉田鶉山翁』

国民が選んだ議員でつくる国会の開設を求めた自由民権運動は、はじめは士族が中心でしたが、1877年の西南戦争の後になると地租の引き下げを求める豪農や商工業者が参加し、全国的な運動になっていきました。県内でも青年たちによってグループ（「結社」）がつくられ、このうち、杉田定一⑰を指導者とする自郷学舎には坂井郡の地主層の子弟が集まり、政治や法令を学んでいました㉑。このグループを中心に、負担が重くなった地租の再調査を求める地租改正反対の運動が起こり、さらに士族層や商工業者にも働きかけた国会開設請願の署名運動に発展しました。政府はこの運動をきびしく取り締まりましたが、1881年には、ついに国会を開き、憲法を定めることを約束しました。

アジアで当時唯一の憲法であった大日本帝国憲法㉒では、主権や外交権、軍隊を率いる権限も天皇にあり、帝国議会・内閣・裁判所のいずれもが天皇を助けるものとされました。国民によって選ばれる衆議院議員の有権者は、国税を多く納める25歳以上の男子のみで、国民の１％ほどでした。このように帝国憲法には多くの制限がありましたが、国民が政治に参加する道が開かれ、県下の第１回衆議院選挙ではいずれも民権派の流れをくむ愛国公党所属の候補者４名が当選しました。

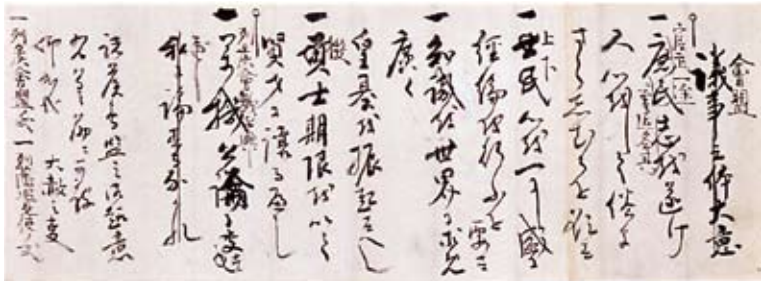
このほかにも授業で取り上げられる史料は豊富にあります。学制・徴兵令・地租改正などの制度改革、太陽暦などの地域の文明開化にかかわる史料を文書館で探してみてください。



⑱ 由利公正筆「五箇条の御誓文」

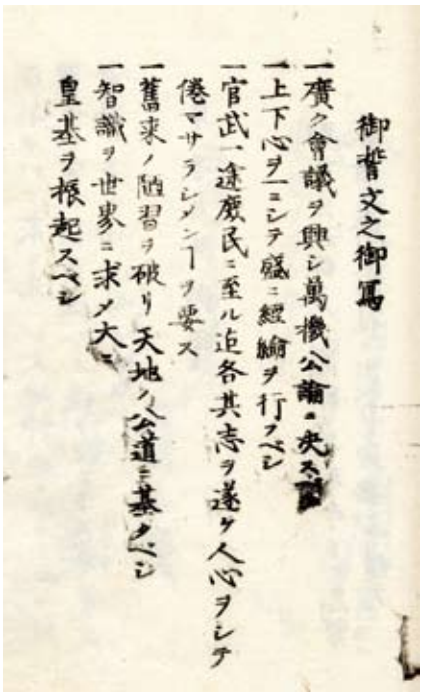
個人蔵　福井市立郷土歴史博物館寄託

これは、由利公正が後年になって自ら書いたものです。



⑲ 由利公正「議事之体大意」　1868年　福井県立図書館蔵

少し小さい字で修正したのは、福岡孝弟（新政府参与）で、これを受けて由利がさらに左側の３行を追加したものと考えられています。



⑳「御誓文」『太政官日誌』巻五

1868年　松平文庫蔵
福井県立図書館保管

当時は「御誓文」とだけ呼ばれました。

㉑ 自郷学舎の筆記帳　1880-81年　福井県立歴史博物館蔵

A0153-00342・00343

自郷学舎に参加した石川正一のノートです。杉田定一が記した「自郷学舎設立大意」のほか、五箇条の御誓文、地租再調査への対応を協議するために結成された「南越七郡連合会開設大意」、愛国社の檄文（行動を起こすように呼びかけた文書）なども写しています。

㉒ 大日本帝国憲法『官報』号外

1889年　長谷川保敏家文書　当館蔵

X0144-00310

憲法は『福井新報』などの県内発行の新聞によっても人々に知らされました。

16世紀末の日本や世界はどのように考えられていたでしょうか。

世界図屏風　浄得寺(福井市)蔵　重要文化財

16世紀末に描かれた日本で最も古い地図屏風のひとつです。ポルトガル人から得た世界地図の知識をもとに描かれたと考えられます。

日本図屏風　浄得寺(福井市)蔵　重要文化財

絵図には、「越前」「若狭」などの国名・郡の数のほかに「山城」(京都府)を出発点に各地域への道筋「東海道」「北陸道」などが赤い線で表されています。また、この時代には北海道について確かな知識はなく、大陸の一部と考えられていたようです。

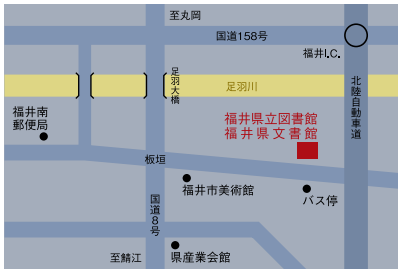
◆ 講演会・県史講座・展示説明会のご案内 ◆

8月9日(土)・11:00～　・14:00～　館員による展示説明会

8月31日(日) 13:30～15:30　県立図書館多目的ホール　入場無料
青木 美智男 氏(専修大学大学史資料室主幹)「教材で使う史料　学んでほしい史料」

福井県文書館

平成20年7月23日発行　　編集・発行／福井県文書館
〒918-8113 福井市下馬町51-11
電話 (0776)33-8890　FAX (0776)33-8891
ホームページアドレス http://www.archives.pref.fukui.jp
E-mailアドレス bunshokan@pref.fukui.lg.jp



健康長寿の福井

08.07.11398